

天文現象など

- 11/1 新月 ☾
 11/5 月と金星が並ぶ (夕方・南西の空)
 11/9 上弦 ☾
 11/11 月と土星が並ぶ
 11/16 満月 ●
 水星が東方最大離角 (夕方・南西の低空)
 月とすばるが並ぶ
 11/17 月と木星が並ぶ
 11/19 月とボルクスが並ぶ
 11/20 月と火星が並ぶ (22 時～明け方)
 11/23 月とレグルスが並ぶ (0 時～明け方)
 下弦 ☾
 11/27,28 月とスピカが並ぶ (明け方・東の空)

星空ワンポイント

秋の空高く、天窓のようにも見える「秋の四辺形」。

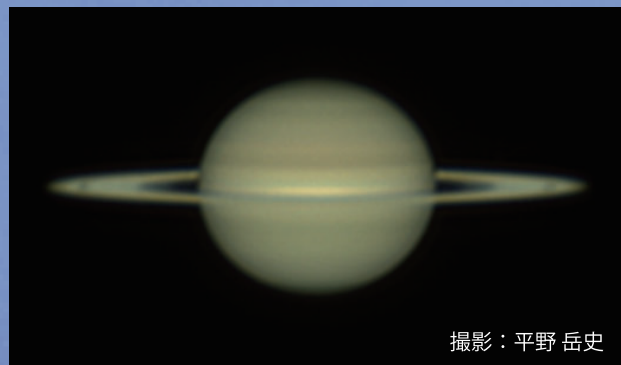
天馬ペガサスの胴体の部分にあたり、日本では「ますがたぼし」や「しぼし (四星)」の名が伝わっています。春・夏・冬の「大三角」に対して少し控えめな秋の空の目印ですが、ここからいくつもの秋の星座をたどることができます。



星図は空にかざして使います。
 東の空を眺めるときは、星図の東が下になるように持ってかざします。

今月の一枚 細くなった土星の環

今月の一枚は、今年の 9 月に西東京市で撮影された土星です。最大の特徴である大きなリング (環) は、すこしほっそりとした様子です。じつは土星の環の見え方 (傾き具合) は常に同じではなく、約 30 年の周期で変化しています。さらに、15 年に一度環を真横から見る時期には、地球から土星の環が全く見えなくなります。この現象を「土星の環の消失」といい、次回起こるのは 2025 年、つまり来年です。本当に消えるわけではありませんが、約 15 億 km も離れた土星の、厚さ 100m 以下の環を真横から見ることは、1500 km 以上先にあるコピー用紙の厚みを見るようなもの。「消失」と呼ばれるのも納得です。この冬でしぼしのお別れとなる環のある土星を、ぜひご覧ください。



撮影：平野 岳史

熟睡プラ寝たリウム



毎年、日本各地で開催されている熟睡プラ寝たリウム。解説員が工夫を凝らし、皆様を全力で眠りへと誘います。流れに身を任せて眠りにつくもよし、睡魔に対抗するもよし。当館では、ご観覧の方に投影中の過ごし方に応じて熟睡証明書 or 完徹証明書をプレゼント!! 今年は、どなたでもご覧いただける回 (11/23) と、中学生以上限定の回 (11/24, 27) があります。

投影日 11月23日、24日 17:10 ~
 11月27日 13:10 ~

2024.11 ...休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1 キッズプラネ	2
3	4	5	6	7	8	9 観望会
10	11	12	13	14 キッズプラネ	15	16
17	18	19	20 おもいやり	21	22	23 熟睡プラ寝
24 大人向け	25	26	27 大人向け	28	29	30

各日のイベント・投影の内容や参加方法については
 当館 web サイトまたはロクトニュースにてご確認ください